

土砂災害を知ろう!!

土砂災害は、私たちの命や財産に被害が生じる自然災害です。主なものに「土石流」「がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)」「地すべり」があり、多古町では特にがけ崩れに注意が必要です。



水も土砂も低い場所に流れます!! 巻き込まれないように行動しましょう!!

こんな前ぶれ現象に注意!! 次のような現象を察知した場合は、土砂災害が直後に起こる可能性があります。直ちに周りの人と安全な場所へ避難するとともに、役場・消防署・警察署へ通報してください。



山鳴りがする



雨が降り続けているのに川の水位が下がる



地面にひび割れができる



川の流れが濁り流木が混ざりはじめる



小石がパラパラ落ちてくる



斜面から水がふき出す

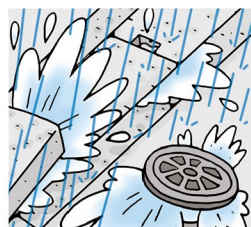
雨の強さと降り方



やや強い雨

1時間に10~20mm未満

ザーザーと降る雨。地面一面に水たまりができ、地面からの跳ね返りで足元が濡れ、話し声が聞き取りにくくなります。



強い雨

1時間に20~30mm未満

どしゃ降り。傘をさしても濡れてしまうほどの雨で、側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れなどの心配があります。



激しい雨

1時間に30~50mm未満

バケツをひっくり返したような雨。道路が川のようになり、山崩れ・がけ崩れが起きやすくなるため、危険地帯では避難の準備が必要になります。



非常に激しい雨

1時間に50~80mm未満

滝のように降る雨。河川の氾濫をはじめ、土石流などが起きやすく、多くの災害が発生するおそれがあります。車の運転も危険です。



猛烈な雨

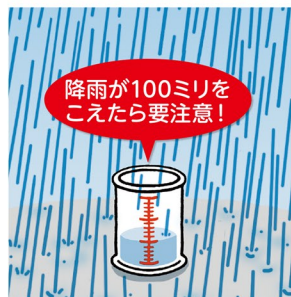
1時間に80mm以上の雨

息苦しくなるような圧迫感のある雨。雨による大規模な災害が発生するおそれ強く、厳重な警戒が必要となります。

土砂災害は、降雨で地中の水分が増して地盤が緩み、さらに長雨や強雨が続いた時に発生するとされています。土砂災害の要因となる降雨について、常日頃から注意しておく必要があります。

土砂災害を事前に予測するには？

雨に注意する



土砂災害の多くは雨が原因で起こります。1時間に20ミリ以上、または降り始めから100ミリ以上の降雨量になったら、十分な注意が必要です。

土砂災害警戒情報に注意する



「土砂災害警戒情報」とは、大雨による土砂災害発生の危険度が高まった時、自治体が避難勧告等を発令する際の判断や、住民の自主避難の参考となるよう、都道府県と気象庁が共同で発表する防災情報です。早期避難の判断に役立てください。

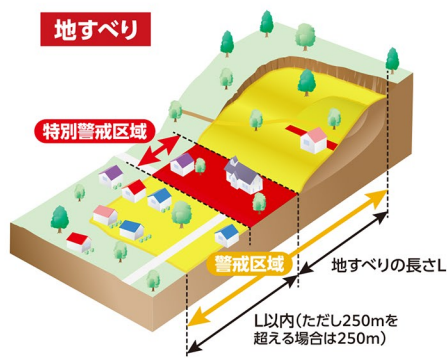
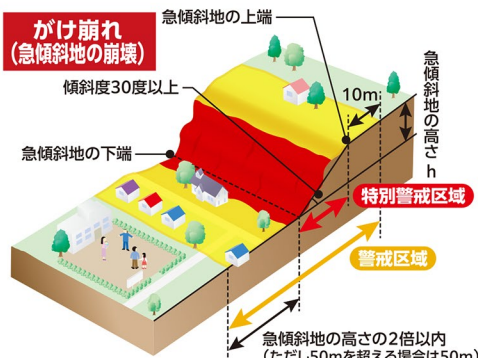
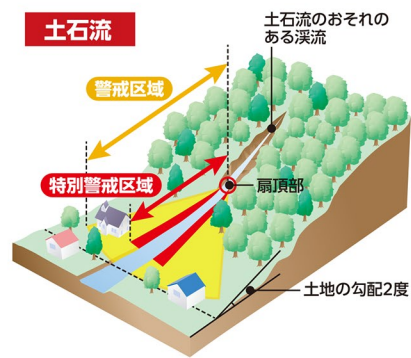
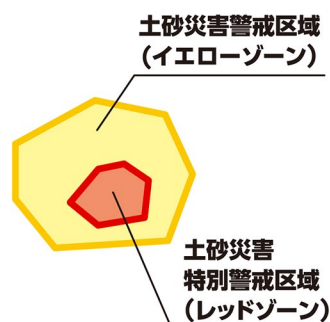
「土砂災害警戒区域」および「土砂災害特別警戒区域」とは

裏面の地図の、黄色で囲まれた**土砂災害警戒区域**は、「土砂災害が発生した場合、住民の生命又は身体に危害が生じるおそれのある区域」です。

さらに、赤色で囲まれた**土砂災害特別警戒区域**は、「建築物に危害が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域」です。



土砂災害警戒区域にお住まいの方は、大雨のときには警戒避難が必要となる可能性があります。注意しましょう。



🚨 逃げ方を覚えましょう



土石流は速度が速いため、流れを背にしていたのでは追いつかれてしまいます。土砂の流れる方向に対して直角に逃げるようにしましょう。

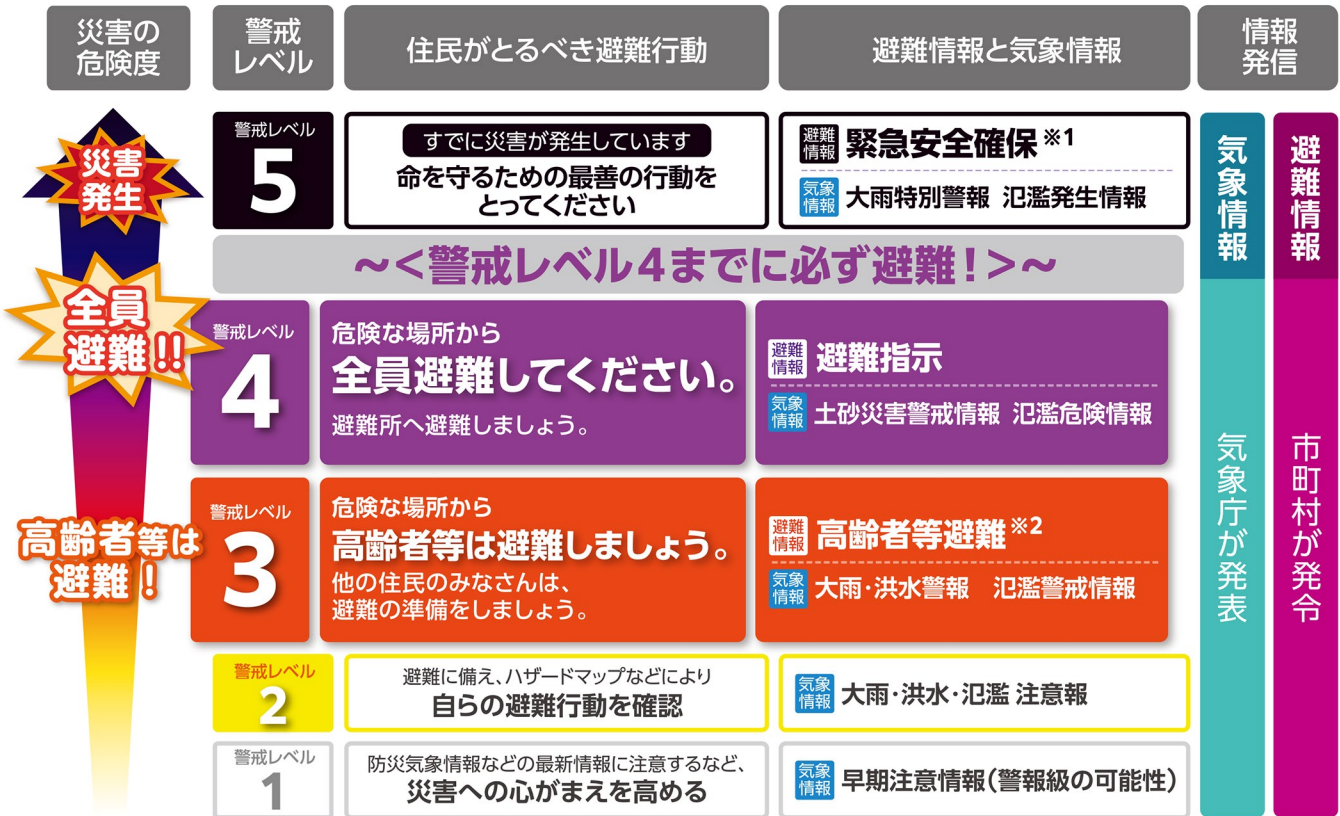


がけ崩れは一瞬で起こるため、早期避難の判断が重要です。緊急時には、がけの高さの2倍以上の距離に逃げたり、室内の安全な場所(がけから離れた部屋や2階など)に避難しましょう。

避難のタイミング

避難警戒レベルに注意

風水害の発生が予想される場合、状況に応じて下記の警戒レベルが発令されます。地域の方々にも声をかけながら、それぞれの警戒レベルに合わせてしっかりと行動しましょう。



*身の危険を感じたときには警戒レベルに関わらず避難してください。また、必ずしも段階的にレベル1から順に発令されるとは限りません。

※1: 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、必ず発令される情報ではありません。

※2: 高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。



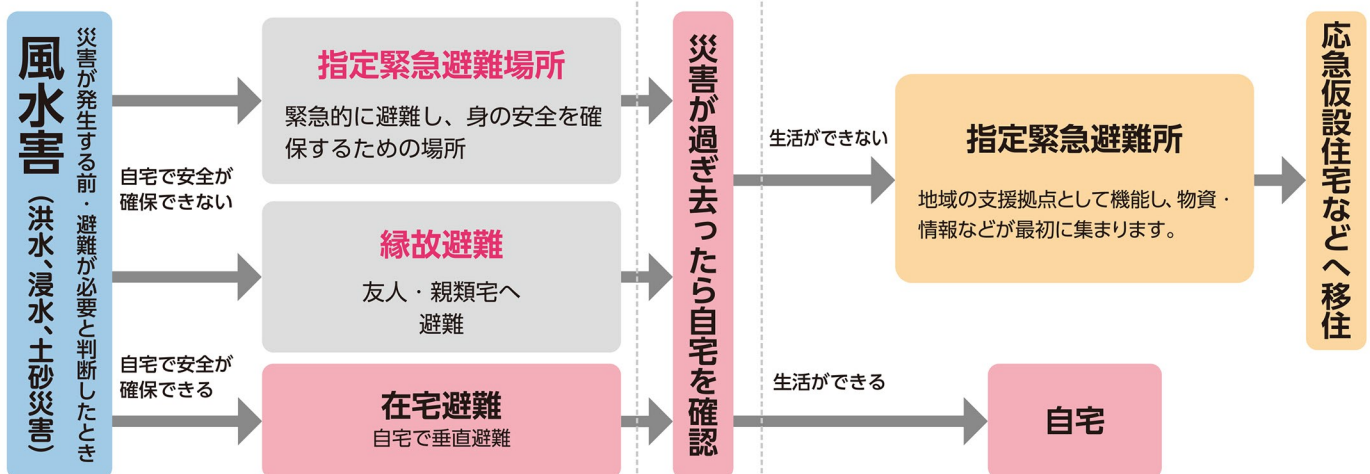
警戒レベル5に相当する

大雨特別警報が発令されたら

数十年に一度、これまでに経験したことのないような、
重大な危険が差し迫った異常な状況にあります。

ただちに「**命を守る行動**」をとってください!

避難行動フローチャート



避難の準備

非常備蓄品・持ち出し品の準備を

外部からの救援物資などが届くまでの数日間(最低3日分、できれば1週間分程度)を自足できるように準備しておきましょう。

非常備蓄品

- 飲 食 料 品 ▶ 米や簡単な調理で食べられるものを最低3日分、水は1人1日3リットル
- 食 器 ・ 箸 類 ▶ 箸・スプーン・紙コップ・紙皿など、食品用ラップやアルミホイルは血代わりにも使用可
- カセットコンロ ▶ 予備のガス缶も用意
- 生 活 用 水 ▶ 断水に備え、ポリタンクや浴そうに水道水をためておく
- 照 明 用 具 ▶ マッチ・ろうそく・ライター・ランタンなど持ち運びができ、すぐに点火できるもの



両手が使える
リュックサックが
便利!!



非常持ち出し品

- 貴 重 品 ▶ 現金・預金通帳・キャッシュカード・印鑑・健康保険証・運転免許証など
- 避 難 用 具 ▶ 懐中電灯・携帯ラジオなど、予備の電池も忘れずに用意
- 救 急 用 具 ▶ 絆創膏・包帯・消毒液・常備薬・持病薬、おくすり手帳も忘れずに
- 非 常 食 ▶ 乾パンや缶詰など火を使わなくても食べられるもの、アレルギー対応食なども
- 飲 料 水 ▶ 持ち運びできるペットボトル入りのもの
- 生 活 用 品 ▶ 洗面道具・ティッシュ・携帯トイレ・生理用品・ビニール袋・軍手・メガネなど
- 衣 料 品 ▶ 下着・靴下・長袖・長ズボン・雨具など、季節によっては防寒具の用意
- 衛 生 用 品 ▶ ウェットティッシュ、ドライシャンプー、除菌用アルコール、体温計、マスクなど

赤ちゃんや高齢者のいる家庭は必要に応じてプラス+

- 粉ミルク・ほ乳びん
- ベビーフード・おやつ
- 紙おむつ・おしりふき
- 絵本・おもちゃ
- 簡易トイレ
- 大人用紙おむつ
- 介護用品
- 予備のメガネや補聴器 など

わが家の防災メモ

わが家の
避難場所

わが家の
集合場所

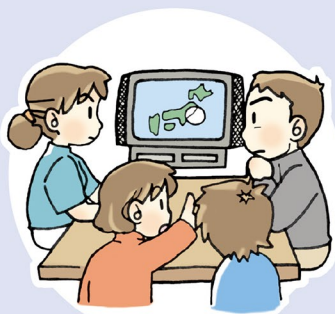
家族の 連絡先	家族の名前	生年月日	血液型	メモ(病症・病歴、携帯電話番号、勤務先など)
		T・S・H・R 年 月 日	型 Rh(+/-)	
		T・S・H・R 年 月 日	型 Rh(+/-)	
		T・S・H・R 年 月 日	型 Rh(+/-)	
		T・S・H・R 年 月 日	型 Rh(+/-)	
		T・S・H・R 年 月 日	型 Rh(+/-)	

困ったときの連絡先 親戚や知人・かかりつけ病院などの連絡先を書いておきましょう!

名 前	電 話	住 所	そ の 他

避難の心得

1 最新情報を入手



ラジオ・テレビ等から最新の気象・災害情報を入手し、危険を感じたら避難準備をしましょう。

2 呼びかけに注意



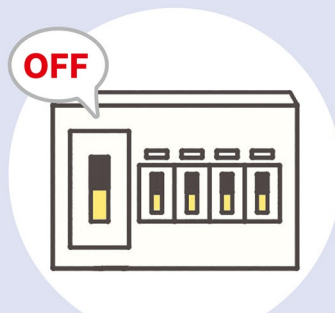
多古町役場、消防署、警察署からの避難の呼びかけに注意しましょう。

3 ガスの元栓を閉める



避難する前にガスの元栓を閉め二次被害を防ぎましょう。

4 ブレーカーを落とす



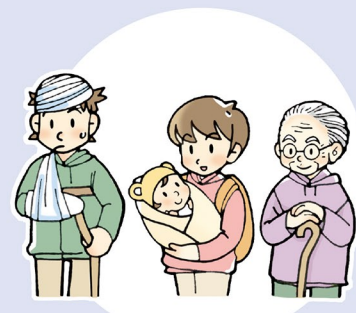
停電しているときでも必ずブレーカーを落としてから避難してください。

5 2人以上で避難



できるだけ1人の避難は避けましょう。また、子どもからは目を離さないようにしましょう。

6 助け合って避難を



子どもや高齢者、病気の人などは避難に時間がかかるので、早めに避難させましょう。また、近所の人の場合も積極的に協力しましょう。

避難所の開設情報に注意!

やむを得ず避難所に避難する場合は、場所により開設状況が異なる場合があるので、目的の避難所が開設しているかどうかを、戸別受信機やエリアメールなどで確認した上で避難するよう心がけましょう。



動きやすい
服装で避難を!

ヘルメットや
防災頭巾など
で頭を保護

軍手や革手袋などで
手を保護

長袖、
長ズボンで

荷物は少なく、非常
持出品は両手があく
リュックがオススメ



裸足や長靴は避け、履きなれたものを。ひもで締められる底の厚い運動靴や登山靴などが良い
(踏み抜き防止インソール)
(中敷き)を入れても良い)

避難の手段

立ち退き避難

気象情報から判断して事前に安全な場所に避難

- 町からの情報を確認し指示された避難所へ
- 安全な地域の知人・友人宅(町外も含む)へ



危険な場所から離れる

浸水している中や河川・水路沿いの避難は危険です。浸水する前に早めの避難を心がけましょう。

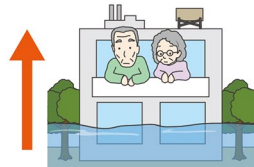


屋内安全確保

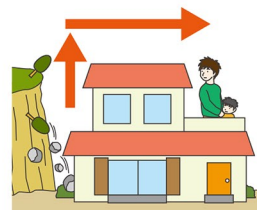
屋外へ出ることが危険な場合、屋内の安全な場所に避難

- 浸水から逃れるため、2階等の高所へ
- 土砂災害の危険がある場合は、山や斜面から反対側の部屋へ

何よりも命を守る行動を!



高所への避難



山と反対側へ避難

自主避難について～危険を感じたらすぐ避難しよう

災害が差し迫った場合、各自の落ち着いた避難行動が大切です。

特に最近の全国各地に見られる局地的豪雨のような突発的な異常気象の場合には、行政からの避難情報が間に合わないケースもあります。身の危険を感じたら行政からの情報を待たずに、自らの判断で避難行動を開始してください。



分散避難について

避難所が開設された場合、状況として普段よりも3密(密閉・密集・密接)の状態に近く、感染症へのリスクが高くなります。「避難」とは、「難」を「避ける」ことであり、分散避難が可能な人は、感染リスクを負ってまで避難所に行く必要はありません。まずはご自身の住んでいる場所の災害リスクを確認して、避難が必要であるか確認しましょう。

【分散避難】とは、災害時に、自宅の2階や近隣宅、車内で待機するなど避難所以外へ避難することにより、3密を

防止し、感染症による2次災害を防ぐための避難方法です。また、自宅が危険な場合も、避難先は役場が開設する避難所だけではありません。指定避難所は本来「自宅が被災して帰宅できない場合に、一定期間、避難生活を送るための施設」であるため、指定避難所が過密状態になることを防ぐためにも、これからは、「避難所」への避難以外に、「**親戚・知人宅**」「**ホテル**」「**在宅避難**」「**車両避難(車中泊)**」などさまざまな避難先に、**地域の人たちが分散して避難**することが大切です。

1



自分の住んでいる場所が「避難の必要がある場所か」確認する。

2



「親戚や友人、知人の家へ避難が可能か」確認する。

3

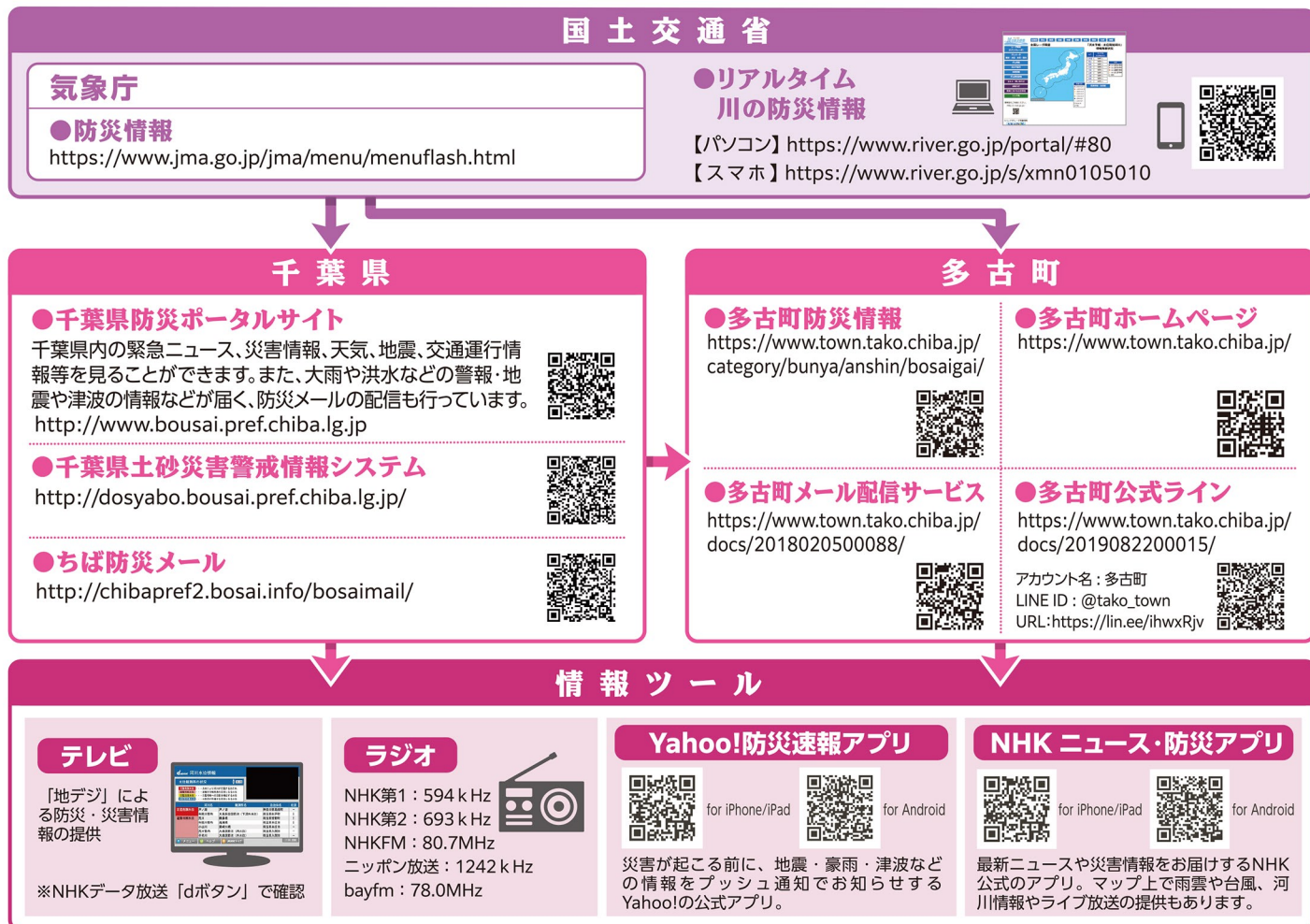


「避難所には感染拡大のリスクがある」ことを再認識し、非常持出品・感染防止物品(マスク、消毒液、除菌シート、体温計等)を準備し、安全確実に避難する。

防災情報の入手

災害情報の流れと情報の入手先

災害情報は、各機関から以下のような流れで町民のみなさんのもとに届きます。町民のみなさんは、防災行政無線・ラジオ・テレビやインターネット・携帯電話・スマートフォンで、災害状況に応じて各機関のホームページ等を活用して情報を集めることができます。また、災害時に必要な防災情報を受信できるように、事前に防災メール等の登録をしておきましょう。

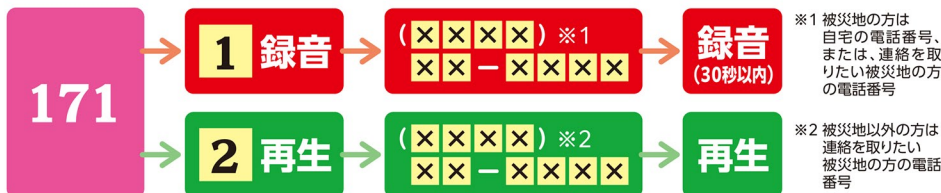


町民の皆さん

災害用伝言サービス 安否の確認など、家族や知人との連絡にご活用ください。

災害用伝言ダイヤル171

災害発生時に電話がつながりにくい状況になった場合に、安否情報を録音し伝えることができるNTTのボイスメールサービスです。【171】にダイヤルし、音声ガイダンスに従い伝言の録音や再生を行います。



※詳しい内容はNTT東日本のホームページで確認して下さい。 [ホームページ](https://www.ntt-east.co.jp/saigai/) <https://www.ntt-east.co.jp/saigai/>

災害時の文字の伝言板「災害用伝言板」

携帯電話会社では、大きな災害(震度6弱以上の地震など)が発生した場合に、各社携帯電話のネット上に「災害用伝言板」が緊急開設されます。緊急時に備え、事前に確認をしておきましょう。

